

機友会は学生・OB・OG・教職員会員で構成され、会員の会費と寄付によって運営されています。

# W

Waseda

# M

Mechanical

# E

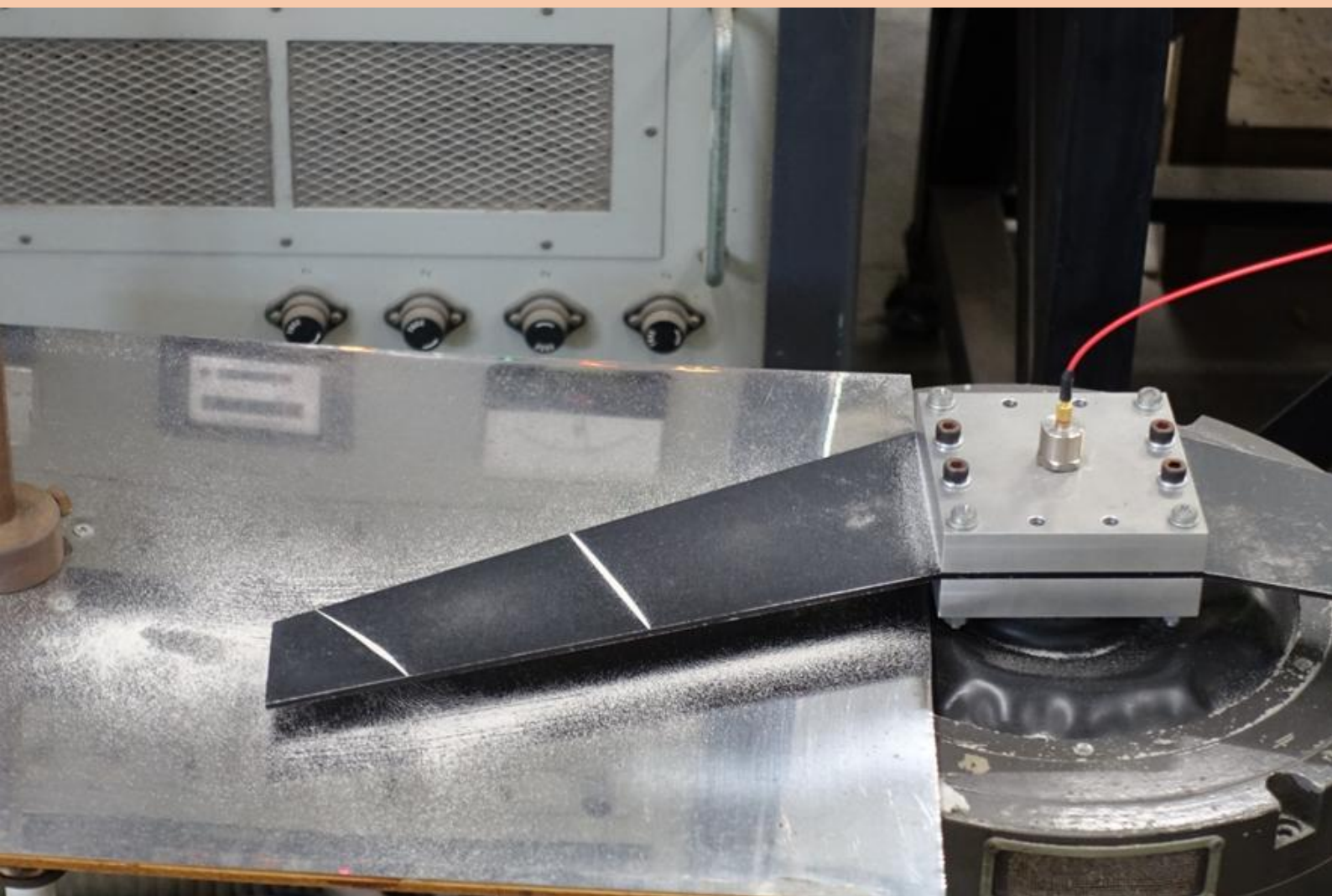
Engineering

E-mail  
Magazine  
No. 14

2024年12月

## Contents

- |                                      |      |                              |       |
|--------------------------------------|------|------------------------------|-------|
| 1. 教員の研究紹介 No. 6<br>梅津信二郎教授（総合機械工学科） | P. 2 | 6. 第45回機友会ゴルフコンペ 開催報告        | P. 7  |
| 2. 梅津光生名誉教授が国土交通省 日本鉄道賞・特別賞受賞        | P. 2 | 7. 早稲田大学ROBOSTEP2024年度活動状況報告 | P. 8  |
| 3. 大聖泰弘名誉教授の日本自動車殿堂入りを祝う             | P. 4 | 8. サポート費納入頂いた方々（2022年以降）     | P. 9  |
| 4. 第10回早稲田大学航空宇宙シンポジウム 開催報告          | P. 5 | 9. 早稲田大学自動車部のご紹介             | P. 11 |
| 5. 第44回早大モビリティシンポジウム 開催報告            | P. 6 | 10. 編集後記                     | P. 12 |



機械科学・航空実験 翼の固有振動モードを表面の砂の集まり具合により確認

（荒尾与史彦教授 提供）

## 1. 教員の研究紹介 No. 6

梅津 信二郎 教授 (総合機械工学科)

当研究室では、マイクロ・ナノスケールでの新しい加工法を開発し、それを活用した小型ロボットやセンサの設計・製作を行うとともに、それに必要な知能システムの開発も進めています。最近の成果として、プラスチックと金属の両方を同時に 3D プリントできる「プラスチック-金属ハイブリッド 3D プリンタ」を開発しました。従来の 3D プリンタではプラスチックか金属のいずれかに限定されていましたが、両素材の融点差といった技術的課題により、同時造形は実現が困難でした。一方、プラスチックと金属を組み合わせた製品は、エレクトロニクス分野で大きな需要があり、特に生体情報を取得する IoT デバイスでは、人や計測部位に合わせた形状のセンサを作製することでアーチファクトを低減できるニーズが高まっています。そこで、シンガポール南洋理工大学 (NTU) の佐藤教授との国際共同研究を通じ、この課題を解決する 3D プリンタ技術を開発しました。さらに、3D プリンタ用インクとして、伸縮性・生体適合性・強度に優れた新素材を開発しており、「何でも創れる 3D プリンタ」を目指して改良研究に取り組んでいます。



また、小型ロボット研究としては、サイボーグ昆虫やミニロボットの開発に取り組んでいます。サイボーグ昆虫に関しては、前述の佐藤教授が世界的なパイオニアであり、地震で倒壊した建物に取り残された生存者の発見を目的とした改良が進められています。さらに、当研究室では農業分野への応用も視野に入れ、害虫被害の早期発見や駆除による農作物被害の最小化を目的としたロボットと AI システムの開発を行っています。これらは「サイボーグ」や「バイオニックシステム」といったロボット技術に属する分野であり、私は 2024 年現在、IEEE CBS 部門の Co-Chair および学術誌 *Cyborg and Bionic Systems* (Impact Factor = 10.5) の Editor を務めています。この分野は早稲田大学機械工学分野の強みとも関連が深く、OB の中にもこの分野で活躍されている方や興味をお持ちの方が多いと存じます。興味をお持ちの方は、私のホームページや学会ホームページ、LinkedIn などを通じてお気軽にご連絡ください。

## 2. 梅津光生名誉教授が国土交通省 日本鉄道賞・特別賞受賞

機友会事務局

丁度 30 年前、齋藤孟教授 (当時) を中心に新生機友会の創設時に事務局理事として活動された梅津光生名誉教授が、国土交通省の 2024 年度の「日本鉄道賞」特別賞を受賞されました。現役時代は、人工臓器の開発評価研究を国際的に先導しつつ、定年前の 15 年間は稲門鉄研の会長を務められました。鉄道事業社以外でこの賞を授与されることは極めて珍しいことのようにです。

以下が、梅津先生からのコメントです。



定年後、今までとは違うことをやりたいと思い、趣味の鉄道と医療を結び付けるプロジェクトとして、「鉄道の災害医療への活用」を案出しました。研究会名は、「Rail DiMeC 研究会」（英語名；Research Group on Utilization for Disaster Medical Care）で、内外の災害医療に携わった医療チーム、医工学者、鉄道技術者・事業者、医療機器会社、自動車会社、運輸会社などが集まったスーパーチームです。被災地からの報道では、となく倒壊した建物や脱線した鉄道車両などのセンセーショナルな映像が紹介されますが、被災していないぎりぎりのところまで、翌日には鉄道が再開されている事実に着目しました。その境界付近の駅を臨時の医療搬送中継駅として指定します。そうすると、鉄道の大規模輸送というメリットを生かして、DMAT などの災害派遣医療チームを迅速かつ組織的に被災地に送ることや、被災地の傷病者を安全に非被災地へ運び出すことができるのではないかと考えました。

まず、多数の傷病者をケアしながら、被災地から安全な地域へと広域搬送できることを、電車に簡易手術室をしつらえた実証実験（図1）で示しました。さらに、内閣府主導で、「首都直下型地震を想定した大規模災害に対する救援訓練」では、関西のDMAT 隊が首都圏の訓練に参加する際に、6台の多種類のドクター・カーをコンテナ貨物で長距離鉄道運送するというわが国初の実験も成功を収めました。図2に示すように、鉄道の災害医療への活用も医工連携の一つの形であり、災害時に医療環境のひっ迫を抑え、より多くの災害弱者の命を救えるようなシステムの早期実現を目指します。



授賞式にて  
梅津光生名誉教授（1974年土屋研卒）と  
小峰輝男招聘研究員（1979年田島研卒）



図1 神戸市営地下鉄海岸線での、簡易手術室の設営と、模擬患者の搬送実験

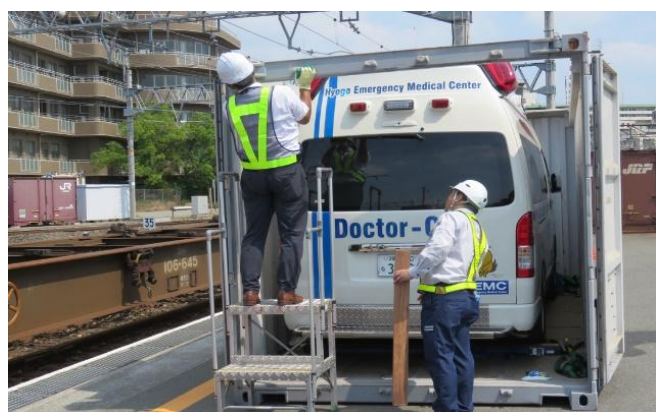


図2 オープントップコンテナへの救急車の積載  
（車高が高く、JR汎用コンテナには積載不可能）

### 3. 大聖泰弘名誉教授の日本自動車殿堂入りを祝う

機友会顧問 太田邦博

去る2024年11月13日、学士会館にて、大聖泰弘名誉教授（機友会前会長）には、「エンジン研究の道を究め、国内外の新たな研究を支援」という功績を讃えられ、日本自動車殿堂入りの表彰を受けられました。

同殿堂は藤本隆宏会長（早稲田大学教授・東京大学名誉教授）を中心とし、著名な大学教授や自動車関係者によって運営され、「日本における自動車産業・学術・文化などに寄与し、豊かな自動車社会の構築に貢献した人々の偉業をたたえ、殿堂入りとして顕彰し、長く後世に伝承してゆく」ことを理念とした団体です。

本年度はトヨタ自動車前会長・内山田竹志氏、QRコードの発明者・原昌宏氏もともに表彰されました。ちなみに昨年度にはトヨタ自動車の故豊田章一朗氏が受賞され、ご子息の豊田章夫会長が代理で出席されました。また2009年には大聖先生の恩師、故齋藤孟先生、2010年には私の祖父・太田祐雄も表彰されました。

大聖先生は受賞に際して述べられたご挨拶を以下にご紹介して報告とさせていただきます。

この度は、日本自動車殿堂入りという栄誉に浴しますことを大変誇りに存じ、審査員の皆様に厚くお礼申し上げます。このような栄誉をお受けすべきかどうか、逡巡しましたが、私と同様に自動車の環境やエネルギー問題に取り組んでおられる多くの研究者の方々に対するエールと受け止めて、拝受することと致しました。

私がこの分野の研究に手を染めるきっかけ、私の恩師である故齋藤孟先生の研究室のドアを叩いたことに始まります。研究室では、当時社会問題化していた自動車から排出される窒素酸化物の生成メカニズムの解明と対策に取り組むことになりました。当時、2000℃を超えて熱分解を起こすエンジン内の高温ガスに関するエンタルピー、エントロピー、化学平衡定数等の熱力学データがわが国では整備されていませんでした。そこで、米国の航空宇宙局が公開しているそれらの詳細データを国会図書館で見つけた時の喜びは今でも忘れられません。そのデータを使って、当時高性能化しつつあった電子計算機を駆使して窒素酸化物の生成・分解反応を予測することを可能にし、その低減対策技術に道を拓くことが出来ました。

さてその後、1973年に勃発した石油ショックを契機として、エンジンの燃費向上や代替燃料の必要性が高まり、その分野の研究にも並行して取り組みました。さらには、昨今の地球温暖化の抑制の観点から、自動車の電動化、すなわち電気自動車やハイブリッド車、燃料電池車の製作や性能評価も手掛け、成果を上げることが出来ました。なおこの間、研究での経験をもとに、国の自動車排出ガス規制や燃費基準の策定にも関わりました。

そのような成果は、国や企業からのご支援、同僚の先生方の協力、優秀で熱心な研究室の学生諸君の努力の賜物と存じ、改めて感謝の念を禁じ得ない次第です。今後は、カーボンニュートラルに向けて研究に従事している若い方々を励まし、応援する立場でこの度の栄誉に報いることができると考えております。以上、ご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。



右から 内山田氏 大聖先生 藤本会長 太田



## 4. 「第10回早稲田大学航空宇宙シンポジウム」開催報告

機友会 航空宇宙懇話会 一丸清貴

去る11月7日（木）、10回目となる「早稲田大学航空宇宙シンポジウム」が開催されました。今回は、「宇宙開発への新たな挑戦」をテーマとして、近年、技術開発の広がりとともに、ビジネス領域としても、急速な拡大をみせ、月をめぐる計画等、様々な動きが見られる宇宙開発の動向について、その分野で、先端的役割を果たされてきた、お二方の講師に、その現状と今後の展望につきお話いただきました。

JAXA 理事の佐藤氏には、日本の宇宙開発の経緯から、昨今の衛星ビジネスの状況まで、広くお話いただき、さらに今後の展望として、各注目プログラムの話題等についても解説いただきました。

またMHIにてH3開発等に深くかかわってこられた渥美氏には、ロケット開発の歴史やこれからの展望のみならず、その背後にある技術レベル向上と開発者、技術者として、いかに基礎的学びが大切かという「教育論」を含めての講演をいただきました。

他大学生、一般の参加もあり、70名超の参加を得て開催された本シンポジウムは、参加者に対するアンケートで、その内容について、大満足（53%）、満足（47%）という好評価を得ました。

—記—

□日時：2024年11月7日（木）15:05～16:45

□会場：西早稲田キャンパス（理工学部）63号館2階203号室

□講演会：「宇宙開発への新たな挑戦」

・講演1 「宇宙開発の最新動向と展望」

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）理事 佐藤寿晃 氏

・講演2 「新しい宇宙時代を生き抜く」

三菱重工業（株）防衛・宇宙セグメントフェローアドバイザー（顧問）渥美正博 氏

□学生参加者：約70名

□懇親会：同日16:30～18:30、理工学部63号館1階「ローム・スクエア」



第10回早稲田大学航空宇宙シンポジウム風景（63号館2階203教室にて）

## 5. 第44回 早大モビリティシンポジウム 開催報告

### シンポジウム実行委員会

本シンポジウムは、自動車技術やモビリティの環境、エネルギー、安全等に関わる諸課題やそれに応える新技術を対象に、早稲田機友会・内燃機関研究会（代表：故齋藤 孟名誉教授）の活動の一環として1981年に開始されました。その後、1993年より早稲田大学理工学研究所内に設置されたプロジェクト研究（早大モビリティ研究会）として受け継がれ、現在「自動車技術と持続可能なモビリティに関する研究（第10次第Ⅱ期早大モビリティ研究会、代表：草鹿 仁教授）」（2023～2026年度の3年間の理工学術院総合研究所におけるプロジェクト研究）の活動の一環として毎年運営・開催しています。また、機友会、本学総合機械工学科および環境総合研究センターの協賛を頂いています。

本年度は第44回を迎え、2024年11月16日（土）（10:00～17:00）に開催され、機友会ホームページでもご案内した効果もあり、卒業生や教員、学生諸君はもとより、他大学や企業、研究機関等の研究者を含めて200名を超えるご参加を得て、第一線で活躍しておられる方々に講演をお願いし、活発な質疑応答と意見交換が行われました。

一般講演では、EUにおけるブレーキ微粒子規制の動向、ディーゼル燃焼における高効率化技術、大型トラックの電動化技術、大型ハイブリッド車の性能・燃費に関するモデリング、新型3気筒ガソリンエンジンの開発、電動車における熱マネジメント技術、SDV（Software defined vehicle）に関する動向等、多種多様な自動車システムを中心に最新技術が紹介されました。さらに、特別講演として、(株)航想研・代表取締役の奥田章順氏には、「航空機分野におけるカーボンニュートラルに向けた将来展望」、マツダ(株)・執行役員には、「カーボンニュートラルに向けた内燃機関の環境への貢献」と題して、特別講演をお願いし、それぞれの分野におけるカーボンニュートラルに関わる将来の技術戦略について語って頂きました。

さらには、56号館地下カフェテリアにて講演者の方々も交えて開催した懇親会では、名刺交換や情報交換を含めて参加者間の親睦を深めることが出来ました。

このように、今回も多くの方々にご参加頂き、充実した内容の講演会とすることが出来ましたのも、講演者の皆様をはじめ、企画・運営に協力された実行委員の方々、またご後援頂いております企業のご尽力の賜と存じ、関係各位に改めて厚く御礼申し上げます。

なお、次回シンポジウムは2025年11月15日（土）の開催を予定しております。詳しい開催次第につきましては、機友会のメールマガジンやホームページにてお知らせ致しますので、お誘い合わせの上、奮ってご参加下さいますよう宜しくお願い申し上げます。



会場風景（理工学部57号館202号室）

## 6. 第45回機友会ゴルフコンペ開催報告

### 第46回幹事 岩崎啓一郎（昭和51年卒）

恒例の機友会ゴルフコンペも今回が45回目。去る11月8日（金）、例年どおり川崎国際生田緑地ゴルフ場にて、秋晴れの最高のコンディションのもとで行われ、23名の方々が参加されました。最高齢は32年卒の山崎さんで最年少は58年卒の松崎さんという四半世紀以上卒業年次が違う方々が集合してプレイできる機会はめったにないと改めて本会の面白さを感じました。

まずは開会式が行われ、松崎幹事からコンペの要領などの説明の後、谷山会長のあいさつで皆さん元気で怪我無くプレイすることを誓い合いました。そして集合写真を撮影した後、アウトとインに分かれてプレイが始まると、アウトの1,2組目は皆さんがゴールドティーからのプレイ。我々3組目は白ティーから同期の松本、藤井、矢吹君と一緒に楽しくプレイしました。しかし、私はチョロやダフリを繰り返した上に、グリーンが高麗で少し遅めでしたので芝目の影響が強く、キャディさんのサポートがないと読めないラインが多く3パットの連続でした。

18ホール終わってみると何とか100を切るスコア。入浴後、懇親会で歓談している間に成績発表になりました。すると意外や意外、大たたきをしたホールがことごとくハンディホールになり、ハンディキャップ28.8を頂き、ネット69.2で優勝でした。なお、準優勝は最高齢の山崎晴通さんでネット70.4、3位は矢貫徹さんでネット71.2、ベストは松崎雅伸さん87（2回連続）でした。

この後はいつものように卒業年次を超えて楽しく歓談して会を終えました。今回も誰も怪我せず、無事に終了することができたことに感謝いたします。



スタート前の集合写真



優勝カップ授与



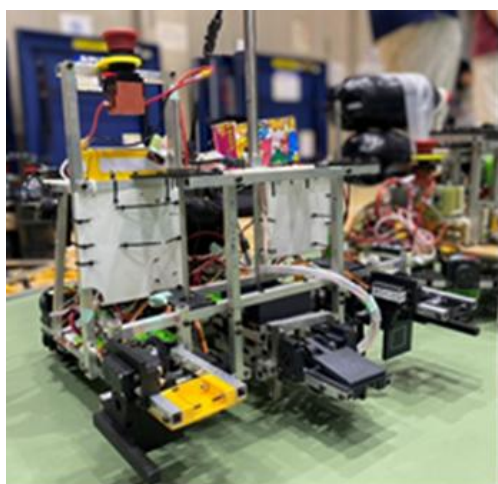
# 7. 早稲田大学 ROBOSTEP 2024 年度活動状況報告

早稲田大学 ROBOSTEP 10 期幹事長 渡邊開

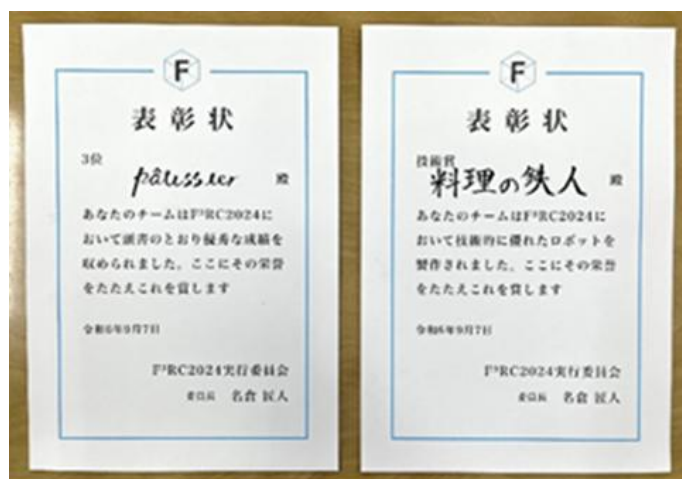
早稲田大学 ROBOSTEP は NHK 学生ロボコン、およびその後の世界大会である ABU ロボコンでの優勝を目標としてロボット開発・製作活動、および関連活動をしている早稲田大学の公認サークルです。NHK 学生ロボコン 2024 が終了し、代替わりを行った後の今年度の活動状況についてこの場をお借りしてご報告させていただきます。

## 1. F3RC2024 への出場

2024 年 9 月 8 日に明治大学生田キャンパスにて開催された F3RC2024 に本サークルから 1 年生 25 人が 3 チームに分かれて参加しました。F3RC は学生ロボコン OB が主催する NHK 学生ロボコンへの出場を目指す新入生のための大会であり、彼らにとっての初の対外試合となりました。準備期間が短いことに加え、1 チームあたり手動機と自動機を各 1 台ずつ要求される厳しいルールでしたが、3 チームとも何とか機体の製作と制御を間に合わせ、さらに当日は 3 チーム全てが決勝トーナメントに進出し、それぞれが総合 3 位、総合 4 位及び技術賞、ベスト 8 という素晴らしい結果を残すことができました。



3 位を獲得したチームの機体



頂いた賞状

## 2. 理工展・早稲田祭への出展

2024 年 11 月 2 日、3 日に開催された理工展、早稲田祭へ今年度も出展を行いました。理工展では NHK 学生ロボコン 2024 に出場した機体の展示と F3RC2024 に出場した機体の操縦体験を行い、早稲田祭では F3RC2024 に出場した機体の操縦体験を行うと共に、新たな試みとして基板を用いたキーホルダー、缶バッジ等の物販を行いました。





理工展・展示の様子



早稲田祭・物販の様子

### 3. NHK 学生ロボコン 2025 に向けた開発

2024年8月25日のABU学生ロボコン2024の終了と同時に次年度のABUロボコン2025のルールが発表され、2024年11月2日にはその日本版ルールであるNHK学生ロボコン2025のルールが発表されました。

NHK学生ロボコン2025のルールはバスケットボールをテーマにして制作されており、2チームの機体と同じフィールドの中を駆け巡って試合を行います。ドリブル、パス、シュートだけでなく、ロボットがジャンプしてゴールを決めるダンクシュートの要素もルール内に組み込まれており、例年の常識が全く通用しない機体の製作が要求されています。

このルールに対応するため、現在はパス、ドリブル、シュート、ダンクシュート、2機体の連携といったそれぞれの要素について切り分けし、それらを統合する形で機体の開発を行っています。

### 4. 今後に向けて

昨年度、弊サークルは機友会様の厚いご支援をいただき、2019年度以来五年ぶりとなるNHK学生ロボコンにおける決勝トーナメントへの進出を果たしました。しかしながら、加工環境や練習環境、予算規模において優勝を争う強豪校とは差がある状態です。サークル員一同よりよい結果を残せるよう尽力して参りますので、今後ともご支援のほど何卒よろしくお願いいたします。

## 8. サポート費を納入頂いた方々 (2022年度以降)

機友会事務局

機友会では、会と3つの学生サークルを対象にご寄付「サポート費」を頂く制度を設けております。この制度に賛同された多くの卒業生の方々から、2022年4月30日から2024年12月22日までの間に総額932,934円のサポート費を頂きました。本会と各サークルの活動費として大いに役立たせて頂いておりますことをご報告し、ここに厚く御礼申し上げます。

なお、2024年10月より、会員管理システム ([https://waseda-kiyukai.jp/member\\_management](https://waseda-kiyukai.jp/member_management)) からサポート費の納入が可能となっておりますので、今後とも皆様方のご支援をお願い致します。

機友会にご支援を頂いた方々（敬称略）（支援総額：289,934円）

2024年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
泉 知明	昭和35年	岩崎 敏彦	昭和37年	新開 友三	昭和37年	手塚 清彦	昭和37年
早川 裕	平成4年	大堀 文男	昭和37年	鈴木 幸一	昭和37年	利根川 瑛	昭和37年
安部 能成	平成23年	小笹 彰男	昭和37年	鈴木 清一	昭和37年	畑佐 桂輔	昭和37年
吉村 宏之	昭和53年	桜井 英世	昭和37年	清田 輝一	昭和37年	星 利樹	昭和37年
大沢 茂樹	昭和40年	佐々木 皓二	昭和37年	高山 雄二	昭和37年	松浦 健夫	昭和37年
藤富 正晴	昭和48年	椎名 信三久	昭和37年	竹内 博裕	昭和37年	眞殿 宏	昭和37年
S37 同期会		下柳田 篤彦	昭和37年	角田 聡	昭和37年	高橋 秀知	昭和59年
2023年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
広瀬 武貞	昭和46年	山本 正晴	昭和48年	川見 正之	昭和49年	鈴木 一彦	昭和52年
太田 宏己	昭和54年	中野 秀夫	昭和58年	貫井 三郎	昭和36年	安沢 浩聡	平成14年
山根研OB会		勝木 孝	昭和36年	吉村 宏之	昭和53年	尾嶋 直哉	昭和52年
2022年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
高木 光一	昭和58年	木村 博彦	昭和39年	美濃 良輔	平成19年	高柳 博	昭和47年
星 光昭	昭和63年	甲斐 正勝	昭和44年	川上 用一	昭和49年	筒井 由紀子（善二郎）	昭和40年
三木 啓史	昭和45年	飯田 康隆	昭和55年	直江 寧和	昭和46年	佐々倉 功一	昭和34年
池田美津留	昭和61年	鬼澤 秀夫	昭和43年	竹本 啓祐	昭和61年	矢野 正	昭和63年
田中 信男	昭和48年	玉岡 一博	昭和52年	西野入 一雄	昭和32年	萩原 明房	昭和57年
鶴田 誠	平成3年	門田 和也	昭和61年	森分 俊彦	昭和37年	堀内 智貴	平成28年
松島 好則	昭和50年	四ツ井 泰彦	昭和54年	笠 公人	昭和36年	刀根 久	昭和36年
西村（福井）絢子	平成23年	坪田 章	昭和54年	恒川 雄三	昭和46年	山本 喜久	平成3年
西村 光太郎	平成24年	白井 道也	昭和30年	池谷 信之	昭和58年	大津 達也	平成6年
杉山 哲也	昭和63年	真下 芳隆	昭和43年	三田 雅昭	昭和57年	岸ノ上 憲一	昭和52年
小川 博	昭和53年	小高 光雄	昭和31年	福田 尚	昭和32年	荻野 哲	平成4年
天明 一郎	昭和46年	岡林 正和	昭和49年	江口 昌典	昭和32年	栗林 寧	昭和38年
杉島 和三郎	昭和27年	三輪 敬之	昭和51年	馬場 泰一	昭和33年	山越 一成	昭和56年
佐伯 俊造	昭和32年	上田 光	昭和26年	丸田 毅	昭和31年	新井 保文	昭和31年
高山 信積	昭和34年	渡部 秀久	昭和43年	守屋 邦憲	兵士絵5年	朝比奈 秀行	昭和43年
宮前 洋一	昭和33年	矢部 公大	昭和47年	前田 良平	昭和54年	上田 宗一	平成7年
仲宗根 寛武	昭和41年	河野 晃	昭和47年	吉村 宏之	昭和53年	川野 元	昭和26年
鍵山 一郎	昭和33年	山口 富士夫	昭和34年	佐藤 博俊	昭和46年		

サークル「ロボステップ」にご支援を頂いた方々（敬称略）（支援総額：100,500円）

2024年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年		
安部 能成	平成23年	高橋 秀雄	昭和43年	高橋 秀知	昭和59年		
2023年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年		
勝田 温		広瀬 武貞	昭和46年	鈴木 一彦	昭和52年		
2022年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
前田 良平	昭和54年	坪田 章	昭和54年	高柳 博	昭和47年	山田 真己	昭和51年
田島 尚雄	昭和52年	真下 芳隆	昭和43年	矢野 正	昭和63年		
高橋 彩来	平成24年	岡林 正和	昭和49年	栗林 寧	昭和38年		
門田 和也	昭和61年	山田 洋輔	昭和52年	上田 宗一	平成7年		

サークル「鳥人間」にご支援を頂いた方々（敬称略）（支援総額：457,000円）

2024年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
安部 能成	平成23年	吉村 宏之	昭和53年	高橋 秀雄	昭和43年	小祝 秀明	昭和47年
2023年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年		
勝田 温		吉村 宏之	昭和53年	家坂 聡	平成23年		
広瀬 武貞	昭和46年	鈴木 一彦	昭和52年				
2022年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
田中 信男	昭和48年	谷山 雅俊	昭和52年	工藤 健一	昭和38年	青柳 泰一郎	平成8年
太田 秀治	昭和36年	真下 芳隆	昭和43年	伊藤 雅康	昭和61年	森田 浩史	平成19年
鶴田 誠	平成3年	岡林 正和	昭和49年	前田 良平	昭和54年	栗林 寧	昭和38年
高橋 将大	平成26年	山崎 英生	昭和39年	吉村 宏之	昭和53年	松島 義幸	昭和45年
小川 博	昭和53年	立山 俊朗	昭和53年	高田 智治	平成4年	上田 宗一	平成7年
前原 剛	平成8年	宮本 重雄	昭和55年	田島 尚雄	昭和52年	加藤 泰彦	昭和48年
杉島 和三郎	昭和27年	向井 茂	昭和49年	高橋 彩来	平成24年	長尾 進一郎	昭和48年
直江 寧和	昭和46年	高柳 博	昭和47年	甲斐 正勝	昭和44年	山田 真己	昭和51年
山本 正晴	昭和48年	矢野 正	昭和63年	門田 和也	昭和61年	大塚 浩毅	平成31年
嘗我 太佐男	昭和46年	山本 喜久	平成3年	坪田 章	昭和54年		

サークル「ワセダ・フォーミュラー・プロジェクト」にご支援を頂いた方々（敬称略）（支援総額：85,500円）

2024年度							
氏名	卒年						
安部 能成	平成23年						
2023年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
鈴木 良治	昭和35年	鈴木 一彦	昭和52年	中野 秀夫	昭和58年	広瀬 武貞	昭和46年
2022年度							
氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
木村 真琴	昭和49年	栗林 寧	昭和38年	岡林 正和	昭和49年	門田 和也	昭和61年
山田 真己	昭和51年	矢野 正	昭和63年	真下 芳隆	昭和43年	田島 尚雄	昭和52年
上田 宗一	平成7年	高柳 博	昭和47年	坪田 章	昭和54年	前田 良平	昭和54年

## 9. 早稲田大学自動車部のご紹介

### 村山 克己（平成2年三輪研究室 修士修了）

本学では一般に体育会と呼ばれる部活動は、競技スポーツセンターの傘下にあつて「体育各部」と呼ばれ、自動車部は創部1901年の野球部を筆頭に体育各部44部の中で部番23を与えられています。自動車部の前身である「早稲田自動車協会」は、訓練による人格の育成と、自動車の必要性の認識を深めることを目的として、1930（昭和5）年に立ち上げられました。1934（昭和9）年にモーター研究会と合併し、自動車部として大学本部に公認され、活動を開始。レースでの優勝や遠方へのドライブを重ね、現在の自動車部の発展の礎となりました。





しかし、好発進したように思われた活動も戦火に巻き込まれ、車両は数台を除いて軍に没収。終戦直後、自動車部の再建が計画されたときには、それまでの協力の結晶であった一切の施設と設備は焼失していました。幸いにも学校に払い下げられたフォード 36 年式 V8 コマーシャルトラックが部再建の基礎となり、1946 (昭和 21) 年に復活を果たしました。また、当時部長を務められていた機械工学科の故難波正人先生のご尽力により、一般学生の訓練用の車両も購入し、新学年度より正式に体育部の正課目として教育が行われるようになったことは特筆すべきことです。

戦後に創設された全日本学生自動車連盟に結成当初から加盟。自動車部は学生自動車界の雄として、数多くのレースにおいて優秀な成績を収め続けています。現在は、操作技術を競うフィギュア、舗装路でスピードを競うジムカーナ、そして未舗装路でスピードを競うダートトライアルで、全関東および全日本の総合杯を目指して活動しています。本自動車部では機械工学系の部員や OB も多く、車両の整備と競技の両面で大いに活躍して頂いています。

本年創部 90 周年を迎え、去る 11 月 30 日に祝賀記念式典を執り行い、稲門体育会会長の河野洋平氏をはじめとした大学関係者、全日本学生自動車連盟および他大学自動車部のご来賓、部長の草鹿 仁教授、前部長の大聖泰弘名誉教授、OBOG 組織である稲門自動車倶楽部会員ならびに現役部員を含め、約 150 名の方々にご出席頂き、盛大に祝うことができました。

また、当部の部室に付設するガレージは陸運局の認証工場となっており、競技車両の整備もすべて部員が行っています。この記事で自動車部に興味を持たれた学生諸君には、是非一度部室を覗いてみてはいかがでしょうか。



早稲田大学自動車部創部 90 周年祝賀記念式典 (ホテル「ルポール麹町」にて)

## 10. 編集後記

### 機友会事務局

今年は、気候変動の影響でしょうか、秋らしい季節の趣きを味わうことなく、早々と冬が到来しましたが、会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、本メールマガジンでは、新たに「論壇・解説コーナー」を設けることに致しました。幅広い分野で、自説、持論の主張を希望される方には、是非事務局宛に原稿をお寄せ下さい。また、専門分野について、一般の読

者にも分かり易い解説をご投稿頂ければと存じます。これらはメールマガジンに掲載し、さらに機友会ホームページにも載せる計画です。

そのスタートとして、先般、浅川基男名誉教授には、連載「日本はものづくりで勝てないのか!？」を本誌に寄稿して頂きましたが、これらをまとめて機友会ホームページに転載し、さらに多くの方々にお読み頂ければと願っております。

寒さ厳しき折、皆様にはご自愛の上、良いお年をお迎え下さいますよう。

**機友会事務局**（開室日：月・木曜日 10時-16時）

住所：〒169-8555 新宿区大久保 3-4-1

理工 55号館 S棟 402

電話/FAX：03-3205-9727

E-mail：(旧) [waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp](mailto:waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp)

(新) [contact@waseda-kiyukai.jp](mailto:contact@waseda-kiyukai.jp)

機友会 HP：<https://waseda-kiyukai.jp/>

#### 会費納入のお願い

会員管理システムを利用して様々な  
決済方法により会費の納入が行える  
ようになりました。



機友会会員管理システム：

[https://waseda-kiyukai.jp/member\\_management](https://waseda-kiyukai.jp/member_management)